

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成25年5月16日(木)

2 出席委員(10名)

委員長 堀内 富久

副委員長 飯島 修

委員 望月 清賢 棚本 邦由 清水 武則 仁ノ平 尚子

丹澤 和平 早川 浩 木村 富貴子

欠 席 臼井 成夫

地元議員 永井 学 樋口 雄一(甲府市)

3 調査先及び調査内容

(1) 【山梨県防災新館】

○調査内容(主な質疑)

問) 屋上にヘリポートを作って、当然、災害時に活躍してもらおうという趣旨はわかるが、災害時ではない、通常ときには、どんな使用目的を考えているのか。

答) ヘリポートであるが、あのヘリポートは航空法に基づいては、飛行場外着陸場という位置づけになっている。これから国土交通省の許可を受ける予定であるが、許可を受けるについては、基本的には防災関係で、大規模災害時に知事等が県内の被災状況を視察する。あるいは政府関係者等に来ていただくということで、使うこととしている。

答) とても大事な施設であることから活用をもっと考えていただきたいと思う。それから9月をめどに、防災行政無線の移転という話で、地上系と衛星系相互にバックアップしてやるということであるが、地震はいつ来るか分からないという部分で、その移転時にそういうことがあったらどうするのかという心配があるが、どのように考えているのか。

答) 9月に主要機器を移転する予定であるが、移転については、一度に全てを動かすことは大変リスクが大きいということもあり、順次期間をかけて、使用にあたり違和感がないようなかたちで動かす予定である。合庁等の回線については、情報政策課が持っている光ケーブルを使用し、途切れないような形で移転を行う。ただし、機器的なもの、サーバーなどは、一たん切って移転することから、全く切れないというような状況ではない。いずれにしても、工夫をしながらなるべく使用しているのに違和感のないよう、切れ目が少なくなるような形

で移転をするということで考えている。

問) そういう確率は少ないとは思いますが、何があるか分からないので、そのへんもしっかり考えて不安のないようにお願いしたいと思う。

いろんな災害時には情報発信というのが、特に必要になってくると考えることから、新聞とかメディアに対して、4階のレイアウトを見ると本部があるということであるが、阪神淡路大震災の経験からボランティアの方のすごい活躍ということも出てくると思うが、そういった方々に対しての物理的なスペースを考えたり、先ほど申したように報道とかボランティアの方々に対しての対応というのは、どのように考えているのか。

答) 新聞等のメディアの関係、それからボランティアあるいは防災計画上、指定公共機関ということで、交通事業者であるとか、そういった機関についてお集まりいただく、ということがある。ボランティアの関係については、3階に同じように会議室として使用している広さは、385平米くらいのスペースを確保して、かつ、ディスプレイモニターを置く予定としている。また、メディアに対しては、臨時記者会見をいざとなったら設置をするということで、これは2階に用意することとしており、広さは250平米くらいのスペースを確保することとしている。こちらのほうにおいてもモニターを備え付ける予定としている。

問) 緊急時には正確な報道が、とても大切になるので、もちろん取り組んでいるということなので、しっかりやっていただきたいと思う。

1階の「やまなしプラザ」にいろいろなスペースがあり、ジュエリーミュージアムについて、県産品を販売する「まるごと山梨館」という説明があるが、このジュエリーミュージアムは、展示だけなのか、それともそういった県産のものが買えるのか。

答) ジュエリーミュージアムについては、きょう見ていただくが、スクランブル交差点側のところに、おおむね40平米くらいのショップのスペースを設ける。ただ、ここのショップは、水晶宝飾協同組合のほうで運営をするわけであるが、そんなに広くはないので、そこにどういうものを置くかということは、水宝連のほうと協議をしながらであるが、やはりできる限り、そこで情報発信をして、例えば、かいてらすとか、中心市街地のほうにある宝飾店のほうへ誘客をしていきたいということを考えているようである。

問) 水宝連の取り組みのコンセプトというのは、あると思うが、せっかく観光客が来て、欲しいものがあるのに、ほかに行ってくれというのは、とてもおもてなしに反するかなというふうに思うことから、そこもまた考えていただきたいと思う。

あと、細かいことであるが、1階の山梨プラザで、ほとんどが午後9時までの運営であるが、ジュエリーミュージアムだけは6時というのは何か理由があるのか。

答) こちらは、県の宝石美術専門学校の附属施設ということになる。そこでの展示ということになることから、今、どういう運営がいいのかということで、宝石美術専門学校と産業支援

課のほうで協議をしているところであるが、やはり展示しているものが非常に高価なものも展示するということもあり、警備等の問題もあるので、時間的にはこの時間でということで、ただ、表に面しているショップとかは、常に明るく照らして、見えるような形にして、ウィンドショッピングみたいなイメージで、ここにジュエリーがあるんだなということが分かるように、シャッターを閉めて暗くするというのではなく、見えるような形で、皆さんのほうに情報発信をしていきたいというふうに考えているところである。

問) 地元の人は、そんなに何回も行かないと思う、やはり観光客の人が行って、帰る間にちょっと買いたいななんて人もいると思うので、みんなとあわせて9時がいいのかなと、私は思うが、また検討していただきたいと思う。

最後に生涯学習推進センターのスペースがあるが、私ごとで申し訳ないが、この生涯学習推進センターがここに入るというのは承知してなかったが、これは、どういう経過でここに設置されることになったのか。

答) 当初作成した計画においては、委員指摘のとおり、ここは生涯学習推進センターではなく、総合観光物産案内センターということで、観光の情報発信ということを当初考えていた。そうした中、今、南口周辺の地域の修景計画をやっているが、この中で、甲府駅の南口広場のところに総合観光案内所というのを甲府市が中心になり作ります。そこへ県が協力するという形で、甲府市が甲府の駅前であって、また、県のもう一つこっちにあるというのは、非常に非効率であり、ダブるようなことをやっては、二重行政ということになるので、県が、一緒に甲府駅前観光案内を一元的にやるということとなった。その結果、防災新館のところのスペースが空くので、以前、第二南別館というのがあり、そこに生涯学習推進センターが入っていた。当時ですとだいたい1万5千人くらいの人々に活用していただいていたが、今回、こちらのほうに移転することによって、オープンスクエアですとか県民広場のほうも活用して、さまざまな生涯学習に関する学習とかイベントをやっていくということで、甲府市民や一般県民の皆さんに広く活用していただけるということになることや、イベント広場も9時までやっているの、より多くの方々に活用していただけるということで、活気やにぎわいの創出が図れるということを考え、生涯学習推進センターを入れることにした。

問) 今、話の出た生涯学習推進センターについてであるが、予定していたものがダメだからこれを入れるということのようであるが、やはり防災新館、その目的の中で、中心市街地ににぎわい創出と、こういうのがうたってあるが、ここがこの生涯学習推進センターでいいのかどうか、私は、生涯学習推進センターというのはここではないほうがいいと思う。しかもこの防災新館で、当初予定していたものがダメということになったならば、もしもの災害時のために、空けておいてもいいんじゃないかという発想もあるし、簡単に撤去できるような状況の中で、何らかのイベントができるような施設にしたらどうか。ここを生涯学習推進センターで使ってしまうと、総体的なものが全部つぶれてしまう。そういうことが想定される。例えば、この建物周辺、こういうスペースのところに、予想図があるが、紅梅デッキとか、県民広場。ここに載っている人たちはみんな若者である。やはり若者中心にまちづくりをし

ていくのか、お年寄りも入れてやれば、いっぺんにできるということでもいいかと思うが、そういう法則でも無い。どっちかに絞るか、こういうことになると、やはり生涯学習推進センターというのはふさわしくないと、こんなふうに私は感じているがどうか。

答) こちらについては、昨年度来、庁内でもいろいろ検討して、生涯学習推進センター、委員御指摘のとおり、中高齢者の方が日中はやはり実際のところ統計を見ますと多く使っているが、今回移転に伴い、オープンの時間を9時まで延長するというので、梨大や山梨学院大学の学生、県立大学の学生さん方にも広くサークル活動等でも使っていただく、その中で、私どものほうの生涯学習の中でより若者の皆さん方に活動していただけるような、例えば、アニメの部分とか、そういうものは、今、非常に若者の文化という形でいろいろやっているの、そういうことも、この生涯学習推進のところでやれるようにということで、さまざまな社会人にも活用していただけるようにということで、そういう講座を拡充するというので、予算のほうも考えており、続けていきたいというふうに考えているところであり、これをやることによって、現状よりもより多くの方々に広く活用していただけるのではないかと、それから、今、委員御指摘のとおり、広く使えるようにということであるので、ここは間仕切りのパーティションで、きょう見ていただくと分かるが、交流室という形で、パーティションで区切れるようになっており、そのパーティションも全部はずしたりすることもできるので、そのような中で、さまざまな形で活用していけるというふうに考えているところである。

問) そうったいい面だけを言えばそういうことになるかと思うが、やはりここに、このスペースに生涯学習推進センターというのは、私は、ふさわしくないとこのように思う。このやはりにぎわいという形の中での質的なものが違うんじゃないかなというのがある。そういった面でなんでもかんでもこれを、施設を作れば、それで活性化になるんだらうと、若者が集まってにぎわいが創出できると、こんなふうに考えているようであるが、ここは、もっと慎重にですね、このスペースの利用を考える。もし考えることができなかつたら、このまま空けておくと。このくらいのつもりで、慎重に対応したほうが、もっと有効な方途があるのではないかと思う。皆さんは仕事の中で、今まで計画したものがいなくなったから、なんでもそれにふさわしい理由付けをして、そこへ持ってくればいいと、このような、説明に聞こえたいかがが。

答) 私の説明もかわりのものをただ入れたというような形の説明に聞こえてしまったことは、申し訳ない、やはり庁内でもさまざまな検討をして、ここを平日から休日まで、特に休日については、県民広場とかオープンカフェ、まるごと山梨館、オープンスクエア、休日はさまざまな団体にかなり活用していただけていると思っている。土日とか祝日というのは、しかし、平日ということ考えたときに、やはりいろんな方々に活用していただけるということ考えたときに、現在生涯学習推進センターは、日中から夜間にかけて、さまざまな講座を活用しまして、今現在、JA会館の5階にある中でも、1万5千人の方に活用していただいているところであるので、より便利な場所に来るということで、より多くの県民の皆さん方にさ

さまざまな形で、私どものほうでもいろんな工夫をこらして、講座をしたり、それから展示場という形でもいろいろと使えるということも考えているので、ぜひ御理解をいただきたいと思う。

問) やはり、そのほかの周辺の施設とそれが合わないということがある。強引に、それを結びつけるということになるかと思うが、私も勉強不足で、生涯学習推進センター、これの利用者、どんな方々が利用しているかということをよく承知はしてないが、この場所でなくてもいいんじゃないか、これが一番の疑問であるが、どうか。

答) 今、生涯学習推進センターについては、県民情報プラザがまだあったときには、第二南別館の下で、限られたスペースの中でやっていただいて、駐車場等も無い中で、皆さまに活用していただいた。今、そこをつぶして、建設中であるので、JA会館に移ったが、やはりそこも駐車場が無いが、県民の皆さま方には非常に好評で、1万5千人の皆さん方に使っていただいている現状で、今回この場所に来ることによって、地下の駐車場も90台、庁内にも駐車場が確保してあるので、より多くの皆さん方に訪ねていただいて、さまざまな学習の機会、それから中高年の方だけでなく、若者それから社会人の若い若年層の方々にも活用していただけるということで、今、生涯学習文化課を中心にいろんな講座等の中身についても見直しをしているところであるので、必ずやにぎわいの創出につながる施設になるというふうには私どもほうでは確信して運営して行きたいと考えているので、ぜひよろしくおねがしたい。

問) どちらかと言うと、やはり県立図書館もある。そちらのほうの部類に入れて、これを観光とか甲府のまちの顔的なものがあるので、その形の中での取り組みという形の中で、やはり考えたならば、これは不適切、不的確な構想かなと、こんなふうには思っている。

答) 私どものほうでも庁内で議論を重ねてくる中で、やはりここは、1階の部分については、今までほかの県でも、こういうような形で、県庁舎をにぎわいの創出、中心市街地の活性化のために使うということは、前例のない取り組みであるが、私どもこれをやる中で、さまざまな検討を重ねてきた。その中で、平日から日中から、それから夜間にまで、多くの人たちに来ていただいて、にぎわいを創出していくとで、どのような施設がいいのか、どのような形がいいのかということを考えてきており、生涯学習推進センターということで、県民の皆さま方、それから甲府市民の皆さま方、多くの皆さま方に積極的に、さまざまな機会を通じて、活用していただきたいというふうには考えているので、今後もまた、多くの方々の御意見をいただきながら、より良い施設となるように運営の工夫をしていきたいと考えているので、ぜひ御理解のほうをお願いしたい。

問) 他県にさきがけてこういった企画ということであるならば、なおさらもっと慎重にして、これが成功に終わるような形の中で、取り組んでいくべきだと思う。私は、再考を求る。



※ 議事堂地下会議室で説明・質疑を行った後、建設中の防災新館を視察した。

(2) 【山梨県警地域課航空隊】

○調査内容（主な質疑）

一言お礼を。私はこの地域出身の県議会議員ですけれども、この航空隊のある場所、ご覧のとおり山の中ですから、限界集落というところまでは行きませんが、ここが大木地区、この向こう側が、法師蔵という地区で、地名のごとく何か由緒、いわれがあるようですけれども、こんな小さな集落ですけれども、立派なお堂があったり、この地域を維持することは大変なんです。ところがこの航空隊の安藤さん、深澤さん初めとしてですね、冬になって雪が積もると、この方たちが真っ先に雪かきをしてくれる。今までは本当に大変だった。ここはどうしてもはずれですから、町の除雪が来るのは、みんながおりてからもしくは、上ってからという状況だったんですけれども、航空隊の皆さんがここへ来てから、地域と本当に一体となっていただいて、地域の人たちは大変感謝しています。もう一つ夏のお祭りがあるんですけども、いつもこの人たちが一緒に参加してくれまして、地域と一体になっている。本当にこの航空隊の人たちには、地域を挙げて感謝していると、多分、本庁のほうにはそういう話が届いていないかもし

れませんけれども、この地域の人たちは本当に感謝している。どうぞまた、隊長さんこの人
たちにお言葉をかけていただければ大変ありがたいと思います。ぜひよろしく願いいたしま
す。



※ 航空隊基地で説明・質疑に先立ち、施設及び県警ヘリはやてを視察した。